

## ジカウイルス感染症について

妊婦さんのための「ジカウイルス感染症」に関する電話等相談窓口を設置しました。  
→増毛町保健センター健康一番館（福祉厚生課保健指導係）53-3111

中南米を中心に、ジカウイルス感染症が多数報告されています。  
ジカウイルス感染症はデング熱及びチクングニア熱と同様、蚊を介して感染します。また、ジカウイルス感染症は感染しても症状がないか、症状が軽いため気づきにくいこともあります。

海外の流行地において、蚊に刺されてから数日後に、軽度の発熱、発疹、結膜炎、筋肉痛、関節痛、倦怠感、頭痛等の症状が見られた場合は、医療機関を受診して下さい。

海外の流行地へ出かける際は、できるだけ肌を露出せず、虫よけ剤を使用するなど、蚊に刺されないように注意して下さい。

### <妊婦さんと妊娠の可能性のある女性へ>

妊娠中のジカウイルス感染と胎児の小頭症との関連が示唆されていることから、妊婦及び妊娠の可能性のある方は、可能な限り流行地への渡航を控えて下さい。

### <流行地から帰国された男性へ>

性行為により、男性から女性パートナーへの感染伝播が疑われる事例が報告されています。現在、性行為による感染についての十分な知見は得られていませんが、流行地域から帰国した男性は、症状の有無にかかわらず、最低4週間、パートナーが妊婦の場合は、妊娠期間中、性行為の際に、コンドームを使用するか性行為を控えることを推奨します。

\* 中南米の流行地域については、下記を参照して下さい。

\* 厚生労働省や国立感染症研究所のホームページもご参照下さい。

# 中南米地域で「ジカウイルス感染症」が流行

特に妊婦及び妊娠の可能性のある方はご注意ください

## 【症状】

主として軽度の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、斑丘疹、結膜炎、疲労感、倦怠感などを呈します。これらの症状は軽く、通常、2～7日続きます。

## 【治療等】

対症療法となります。通常は比較的症状が軽く、特別な治療を必要としません。

## 【予防対策】

流行地域に渡航される際は、蚊に刺されないように注意してください。

## 【流行地域】

アフリカ、中南米、アジア太平洋地域で発生がありますが、近年は中南米で流行が拡大しています。また、中南米以外(米領サモア、フィジー、ミクロネシア連邦コスラエ州、マーシャル諸島、ニューカレドニア、サモア、トンガ、カーボベルデ及びバハイ)でも発生しています。



※平成28年4月18日現在 中南米における流行地域

## 【妊婦及び妊娠の可能性のある方へ】

近年、ブラジルにおいて小頭症の新生児が増えており、ジカウイルスとの関連が示唆されています。このため、妊婦の方及び妊娠の可能性のある方は流行地域への渡航を控えた方が良くとされています。やむを得ず渡航をする場合は、特に蚊に刺されないように注意してください。

## 【流行地域に渡航される方へ】

### 【渡航中】

流行地域では、長袖、長ズボンの着用や、定期的な蚊の忌避剤(虫除けスプレー等)の使用などにより、蚊に刺されないように注意してください。

### 【帰国時】

蚊に刺されたことだけで過分に心配する必要はありませんが、心配なことや発熱等の症状のある方は、検疫所にご相談ください。

症状の有無にかかわらず、帰国後少なくとも2週間程度は、忌避剤の使用など蚊に刺されないための対策を行ってください。

また、性交渉による感染リスクも指摘されており、流行地域から帰国した男性は、症状の有無にかかわらず、最低4週間、パートナーが妊婦の場合は、妊娠期間中、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えてください。

検疫所ホームページ FORTH

<http://www.forth.go.jp>

FORTH